

**令和6年度
第2回 三重県河川整備計画
流域委員会**

**二級河川 江川水系
(第1回流域委員会)**

令和6年12月19日





目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 治水の概要
4. 利水の概要
5. 環境の概要
6. 今後の進め方



目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 治水の概要
4. 利水の概要
5. 環境の概要
6. 今後の進め方

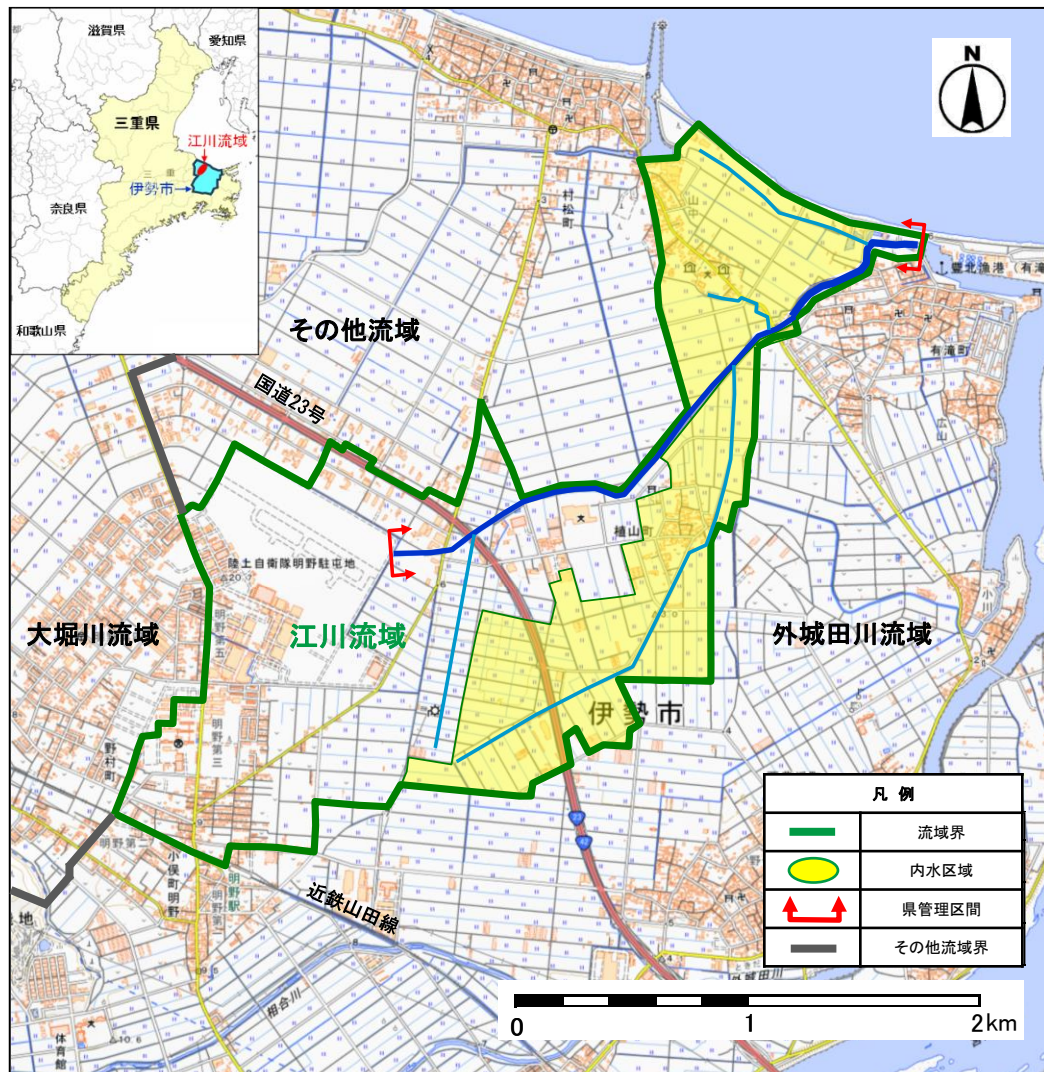
江川流域の概要



- 江川は、その源を伊勢市小俣町明野付近に発して、水田地帯を流下し、伊勢湾に注ぐ管理延長約2.8kmの二級河川である。
- 江川は流域内の標高差が10mにも満たない平地河川であり、流域の約4割を内水区域が占める。
- 河口部には高潮対策として江川樋門及び江川排水機場が設置されている。

- 関係市：伊勢市
- 主要道路：国道23号
- 鉄道：近鉄山田線

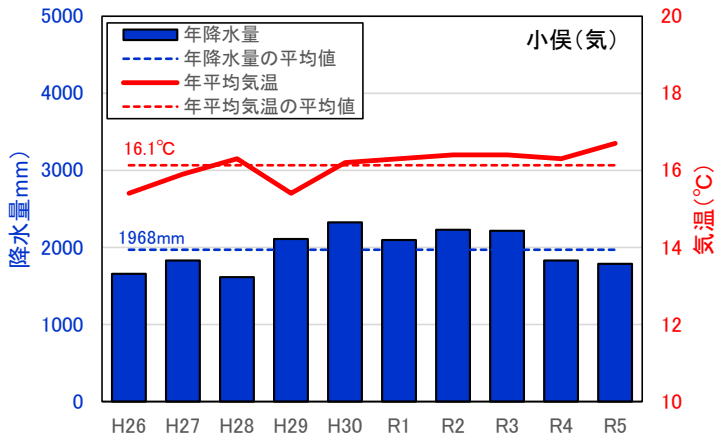
江川流域 流域面積：約3.7km²
管理延長：約2.8km



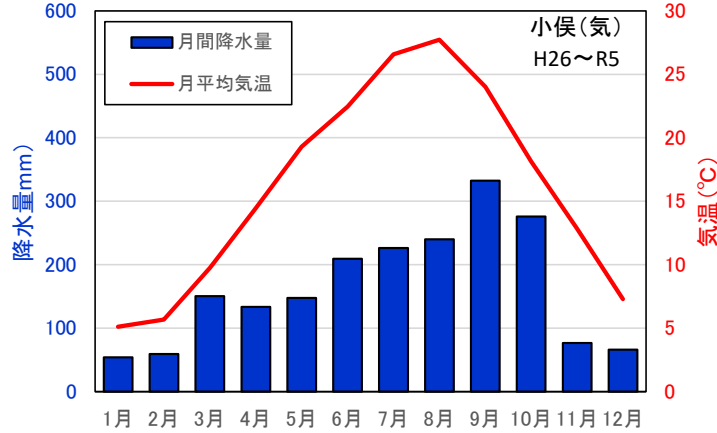


■気候（降水量・気温）

■ 江川流域の気候は、直近10か年において年平均気温が約16.1℃、年平均降水量は約1,968mmである。降水量は全国平均約1,691mm※を上回っており、比較的温暖な気候の地域である。

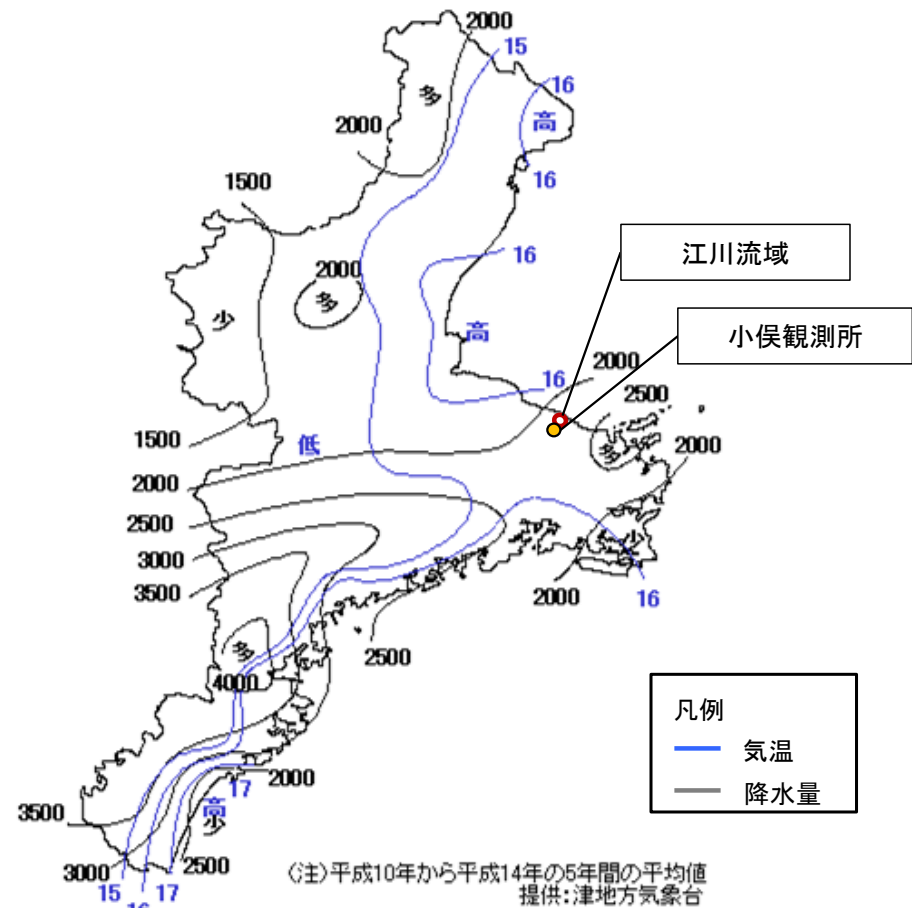


年平均気温、年間降水量 (気象庁小俣観測所)

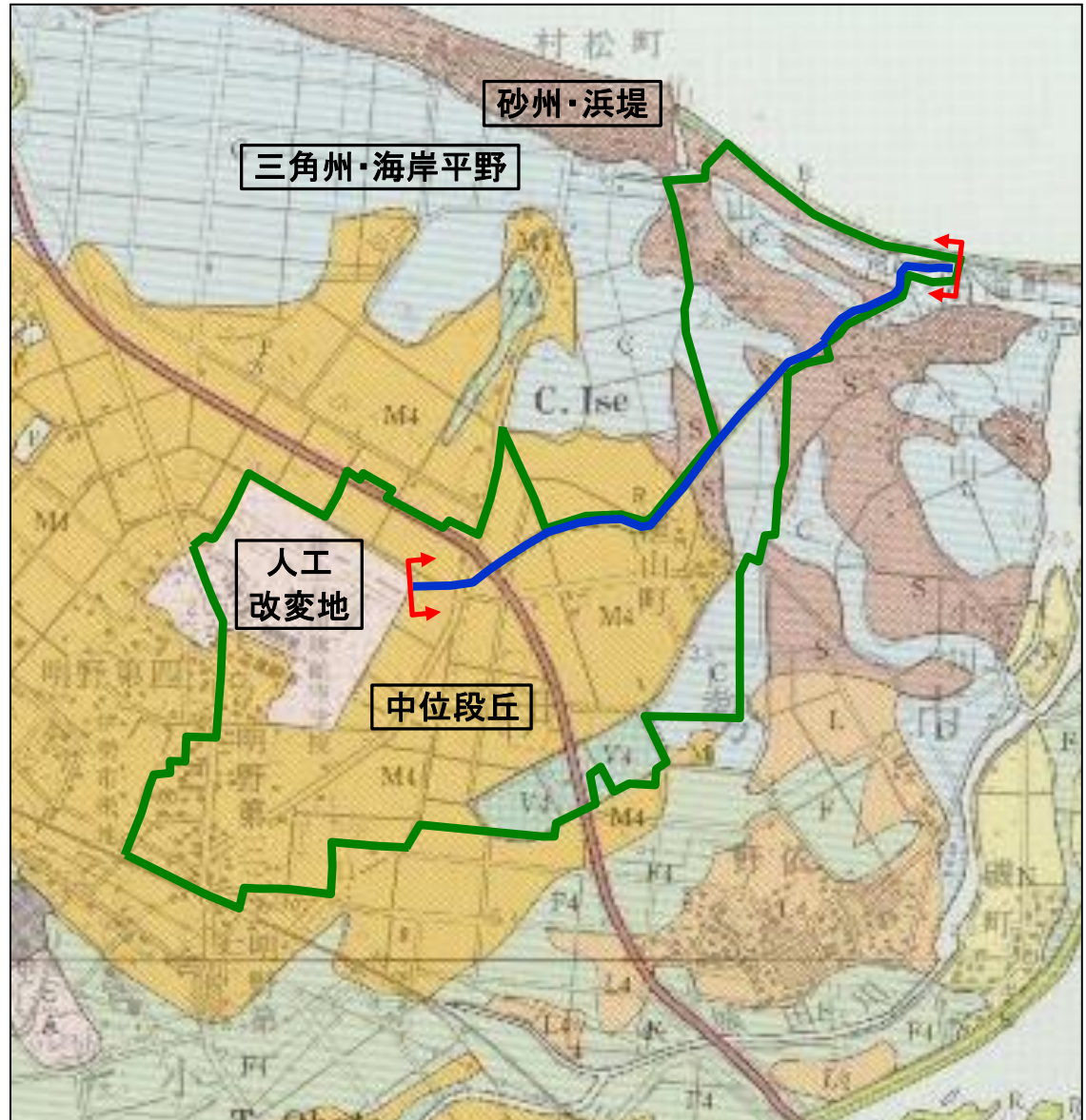


月平均気温、月別降水量 (気象庁小俣観測所H26~R5の10ヶ年平均)

※「令和5年版日本の水資源の現況について」(国土交通省水管理国土保全局水資源部)による51地点における2013~2022年のデータから算出



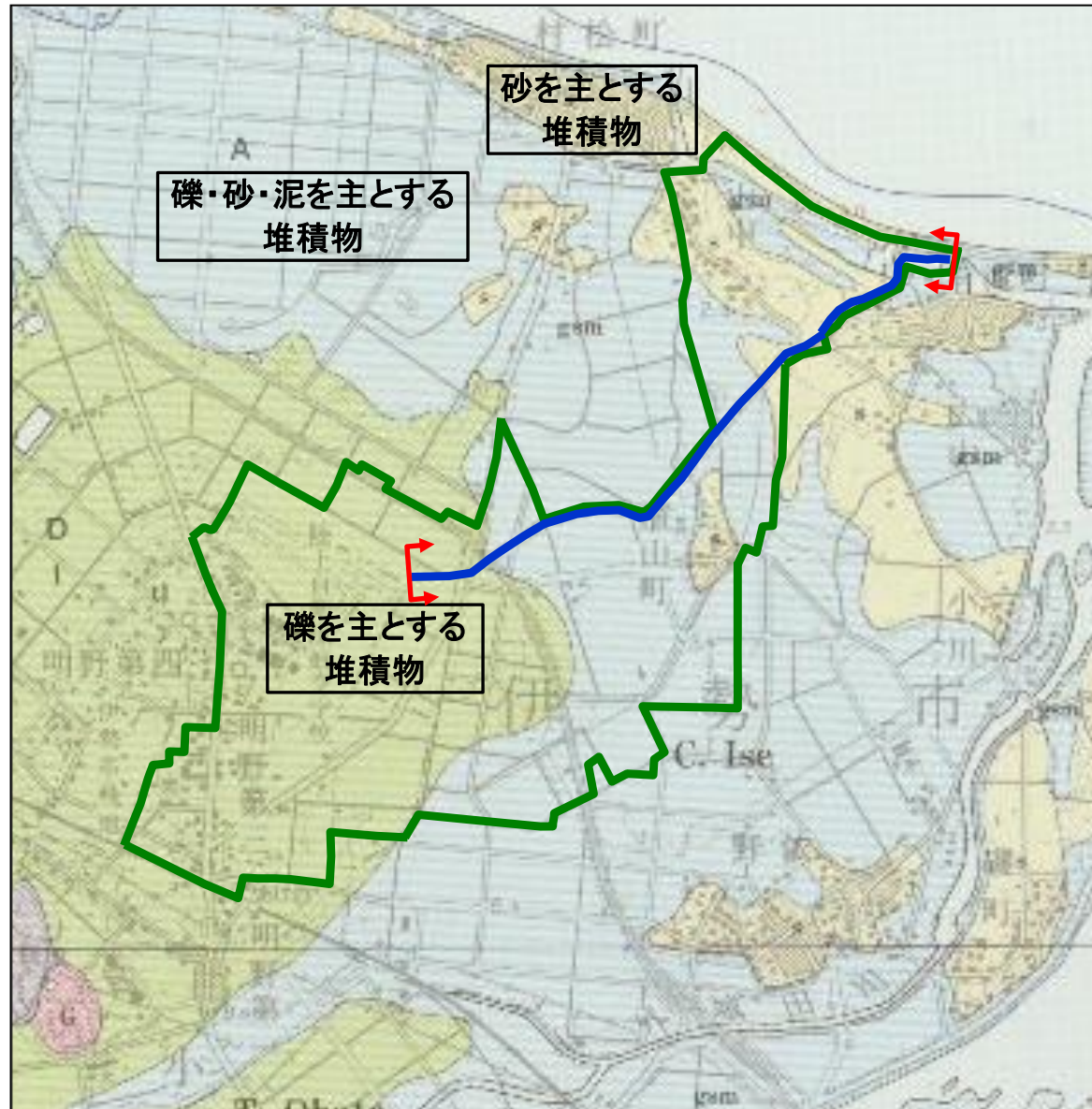
- 江川流域は、伊勢平野の南部に位置し、流域は低平な台地・段丘と低地で占められている。
- 上流部は中位段丘で、陸上自衛隊明野駐屯地付近が人工改変地である。
- 下流部は三角州・海岸平野となっており、海岸部は砂州・浜堤となっている。



台地・段丘		その他	
上位段丘	U	浅い谷	V
中位段丘	M	干拓地	K
下位段丘	L	盛土地	h
低地		人工改変地	A
谷底平野・氾濫平野	F	河川・池	P
三角州・海岸平野	C	主要道路	
自然堤防	N		
砂州・浜堤	S		
河原	R		
海岸	B		
干潟	T		

■ 江川流域の地質は、下流部は砂を主とする堆積物、中流部は礫・砂・泥を主とする堆積物、上流部は礫を主とする堆積物で構成されている。

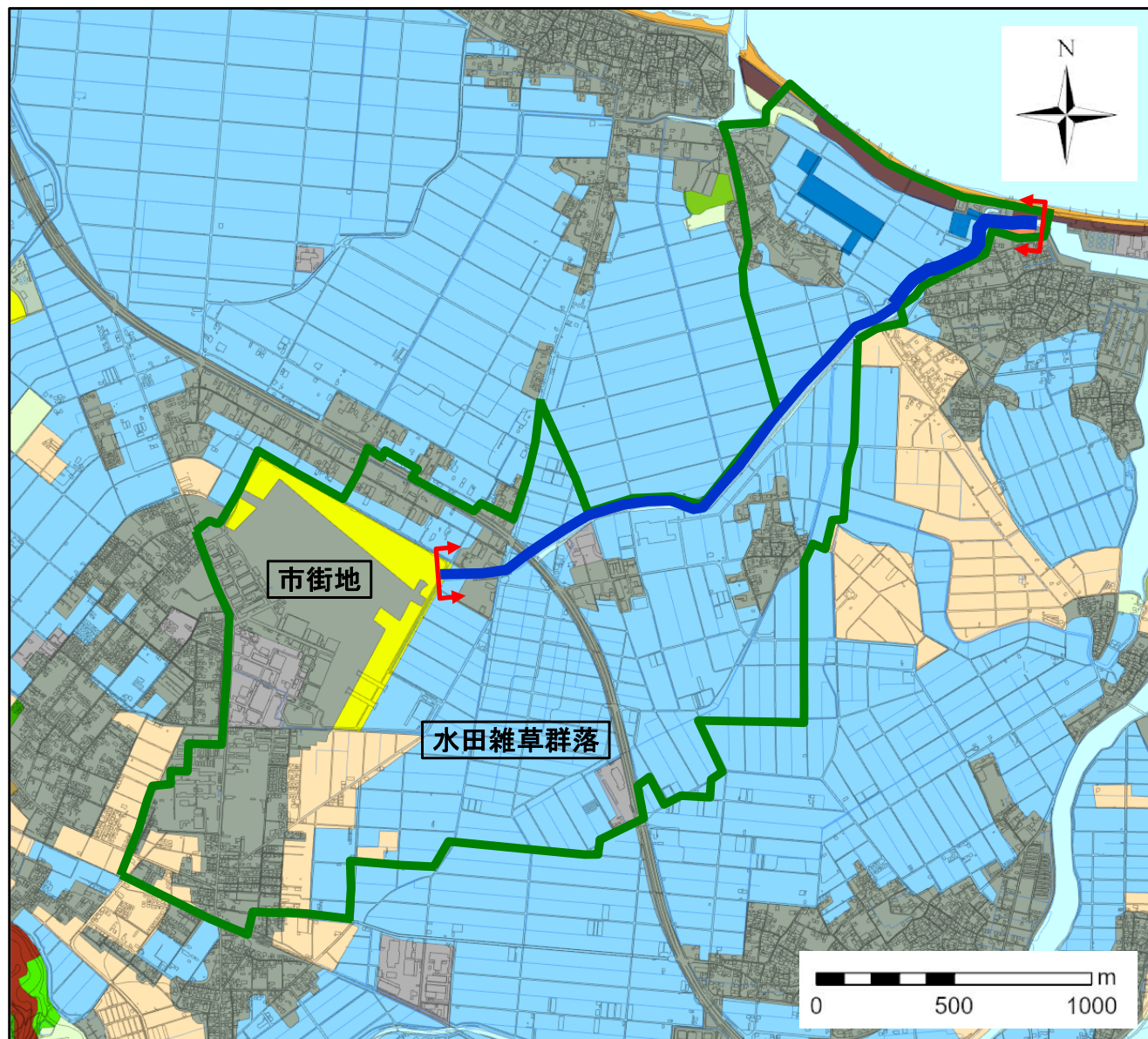
	埋立地 Reclaimed land
	礫・砂・泥を主とする堆積物 Gravel, sand and mud sediments
	砂を主とする堆積物 Sand rich sediments
	礫を主とする堆積物 Gravel-rich sediments
	礫を主とする堆積物 Gravel-rich sediments
	礫層 Gravel
	礫岩・砂岩・泥岩 Conglomerate, sandstone and mudstone
	花崗岩類 Granitic rock



■ 江川流域は、市街地を除き、植生のほとんどが水田雑草群落となっている。

植生区分

- 400100 シイ・カシ二次林
- 400200 タブノキ・ヤブニッケイ二次林
- 410105 アベマキ・コナラ群落
- 410700 アカメガシワ・カラスザンショウ群落
- 420102 モチツツジ・アカマツ群落
- 470400 ヨシクラス
- 490000 砂丘植生
- 540100 スギ・ヒノキ・サワラ植生
- 540300 クロマツ植生
- 560100 ゴルフ場・芝地
- 570100 路傍・空地雑草群落
- 570300 畑雑草群落
- 570400 水田雑草群落
- 580100 市街地
- 580101 緑の多い住宅地
- 580300 工場地帯
- 580600 開放水域
- 580700 自然裸地

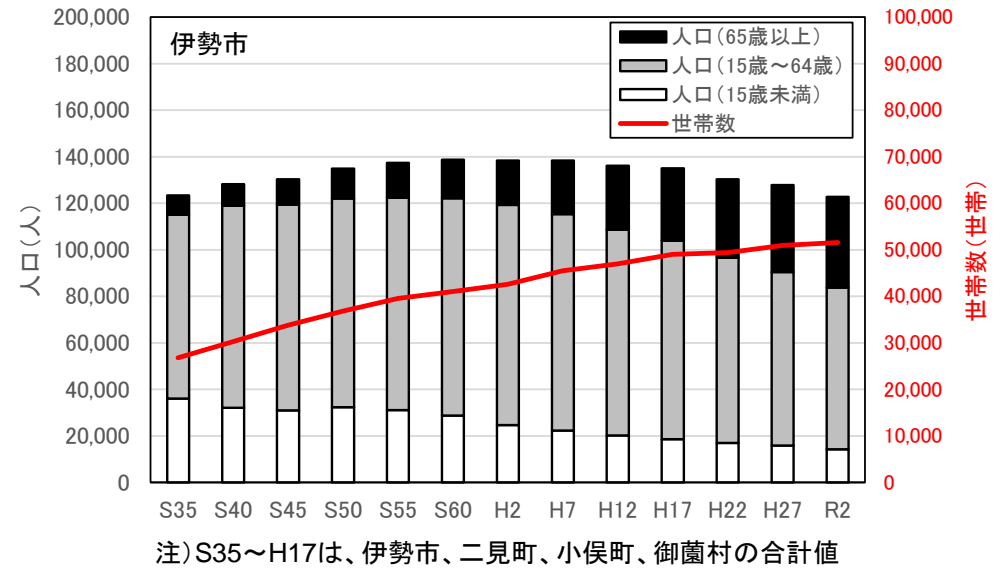


出典：自然環境保全基礎調査 植生調査1/25,000植生図

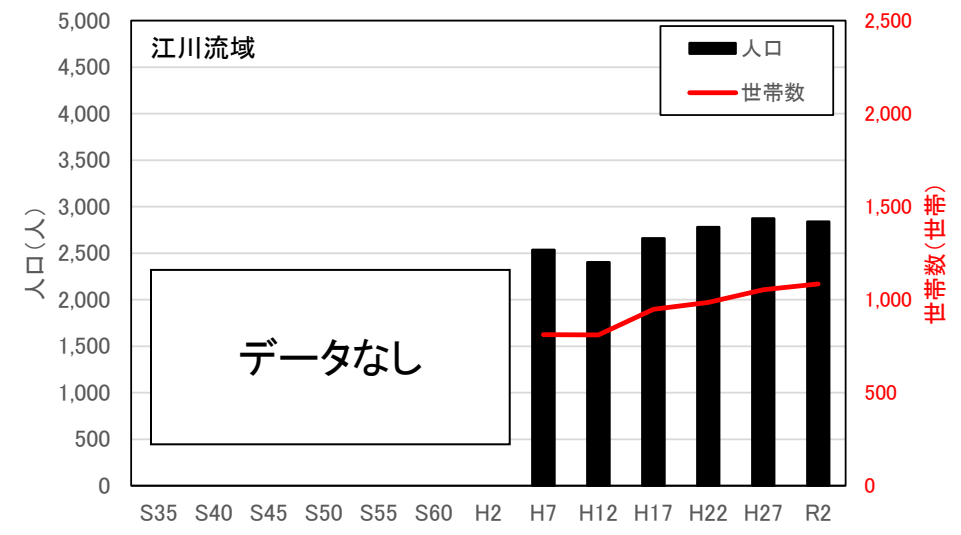


■ 江川流域が位置する伊勢市 (H17.11.1に度会郡二見町、小俣町、御園村と合併)の人口は、昭和35年から昭和60年までは増加し、その後は減少傾向にある。なお、65歳以上の人口及び割合は増加傾向にある。

■ 一方、江川流域内の人口・世帯数は、流域上流部の市街化の進展に伴い、僅かに増加傾向にある。



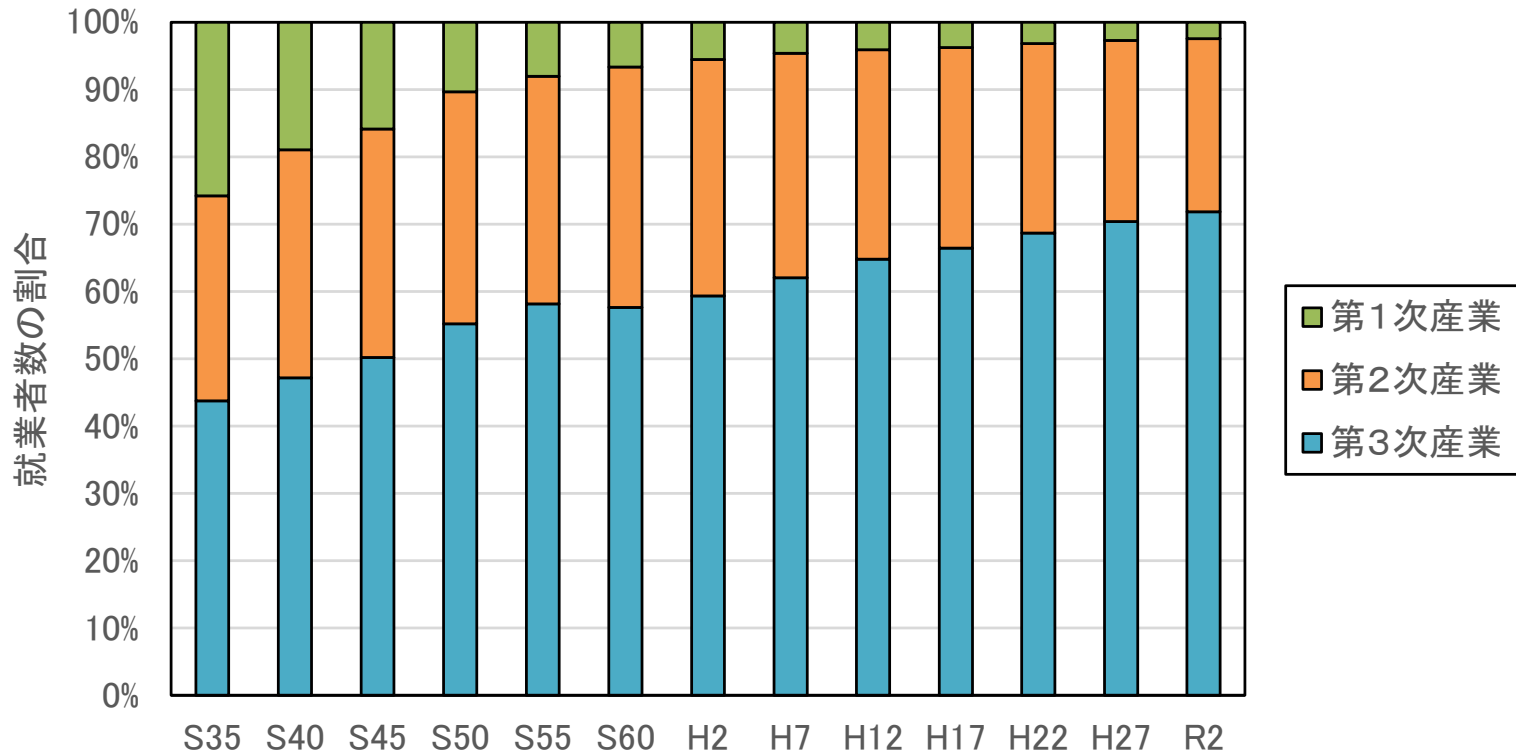
出典: 国勢調査



出典: 国勢調査(500mメッシュデータ)



- 江川流域が位置する伊勢市の産業別就業者数は、第1次産業就業者の割合が大きく減少しており、第2次産業就業者の割合も平成7年以降は減少傾向にある。
- 一方、第3次産業就業者が占める割合は年々増加し、令和2年には約7割を占めている。

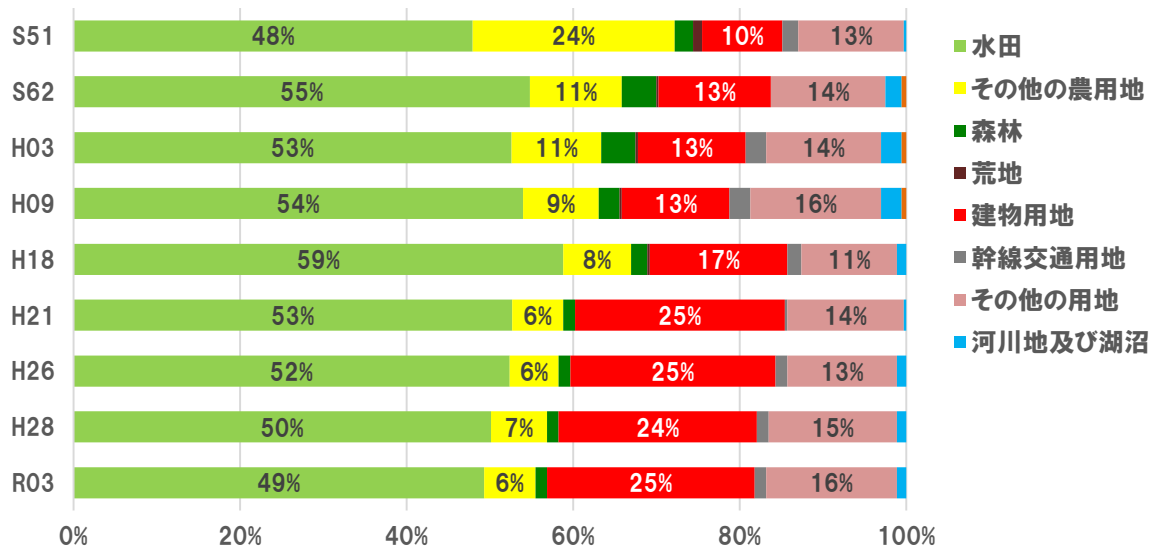


出典：みえDataBox(市町(村)累年統計表)

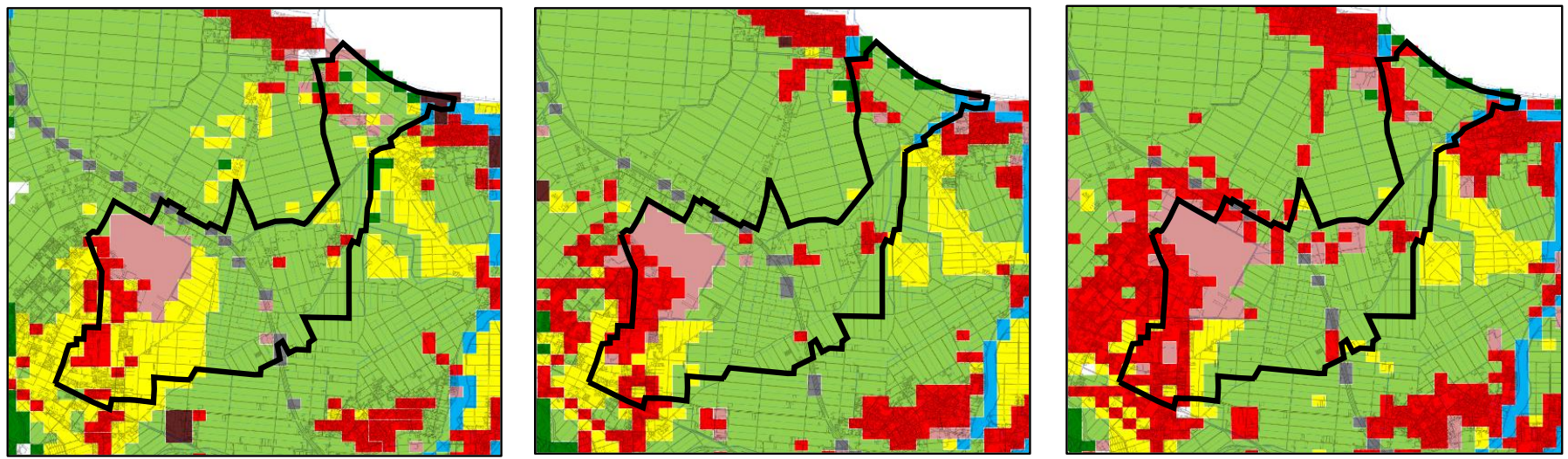
■土地利用の変遷

■ 昭和51～平成18年にかけて、ほ場整備によりその他農用地の水田化が進んでいる。また、上流域において国道23号沿線の市街化により建物用地は、昭和51～平成21年にかけて増加している。

■ 平成21年以降は、土地利用に大きな変化は見られない。



【昭和51年】 → 【平成18年】 → 【令和3年】



出典)国土数値情報「土地利用細分メッシュデータ」

■ 江川流域近傍の指定文化財として、紙本墨書大般若経附経櫃・帙箱(三重県指定)、獅子舞(伊勢市指定)がある。

■ 獅子舞
 2月の第2土曜日に宇気比神社の祭礼として行われる。
 豊穰祈願と思われる「刀抜き」の行事や、夜、火の周りで若衆と御頭が猛烈に押し合う「打ち祭り」などが行われる。



■ 江川流域全体が都市計画区域内にあり、流域上流部において用途地域(第二種中高層住居専用地域及び第一種住居地域)が指定されている。



出典:伊勢志摩圏域マスタープラン(三重県)



用途地域図

- 江川流域のほぼ全域が農業振興地域として指定されている。
- 江川流域内に鳥獣保護区、土砂災害警戒区域の指定はない。



農業振興地域は、農業の振興を促進することを目的とする地域で、県が指定する。

農用地区域は、農業振興地域の中で、特に土地改良事業がなされたなどの生産性の高い地域で、市町村が指定する。

出典：国土数値情報「農業地域データ(H27)」

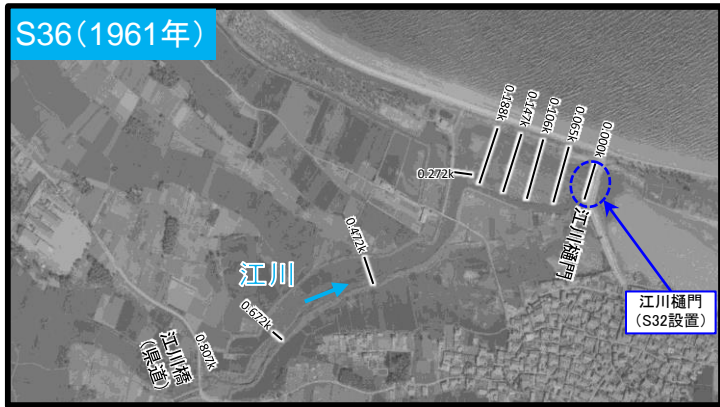


目次

1. 流域の概要
- 2. 河道の変遷**
3. 治水の概要
4. 利水の概要
5. 環境の概要
6. 今後の進め方

河道の変遷 下流部(0.0k~0.807k)

- 昭和32年に、河口部の江川樋門が整備された。
- 江川橋(県道)より下流部は川幅が広く、高潮位時の洪水貯留池としての役割を有している。
- 平成16年に、高潮対策として江川排水機場が整備された。



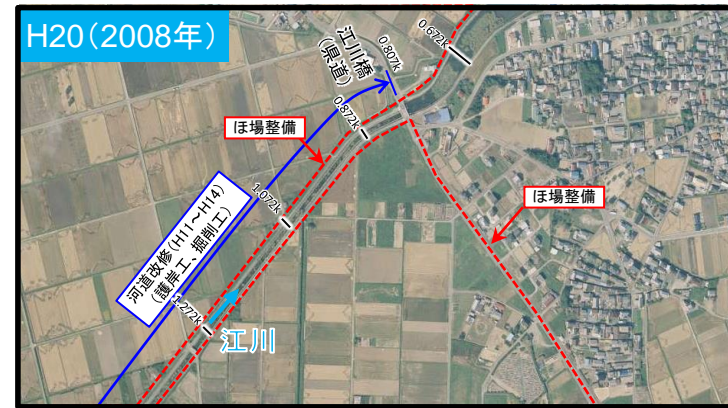
0.807
江川(県道)



河道の変遷 中流部(0.807k~1.272k)



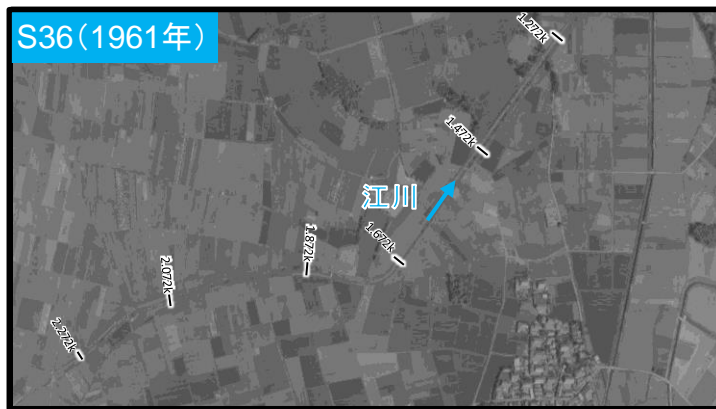
- 江川橋(県道)から県管理区間上流端の区間では、昭和40~50年代に河道拡幅が行われ、その後、平成11~14年に低水路の河道掘削が行われた。
- 背後地のほ場整備は、平成20年には完了している。



河道の変遷 中流部(1.272k~2.072k)

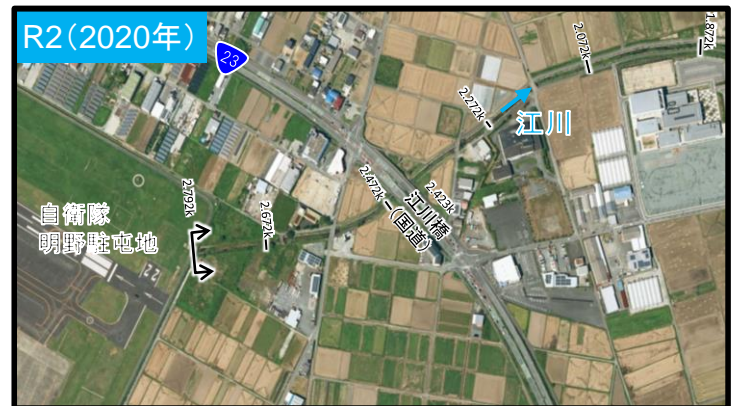


- 江川橋(県道)から県管理区間上流端の区間では、昭和40~50年代に河道拡幅が行われ、その後、平成11~14年に低水路の河道掘削が行われた。
- 背後地のほ場整備は、平成20年には完了している。



河道の変遷 上流部(2.072k~2.792k)

- 県管理区間の上流端に位置する陸上自衛隊明野駐屯地は、昭和30年代から昭和60年代の間に段階的に施設が拡張されている。
- 国道23号の開通後は、国道沿線の土地利用が進んでいる。





目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
- 3. 治水の概要**
4. 利水の概要
5. 環境の概要
6. 今後の進め方

■ 江川流域においては、平成16年の河川改修が行われるまで頻繁に内水による家屋の浸水被害を受けている。

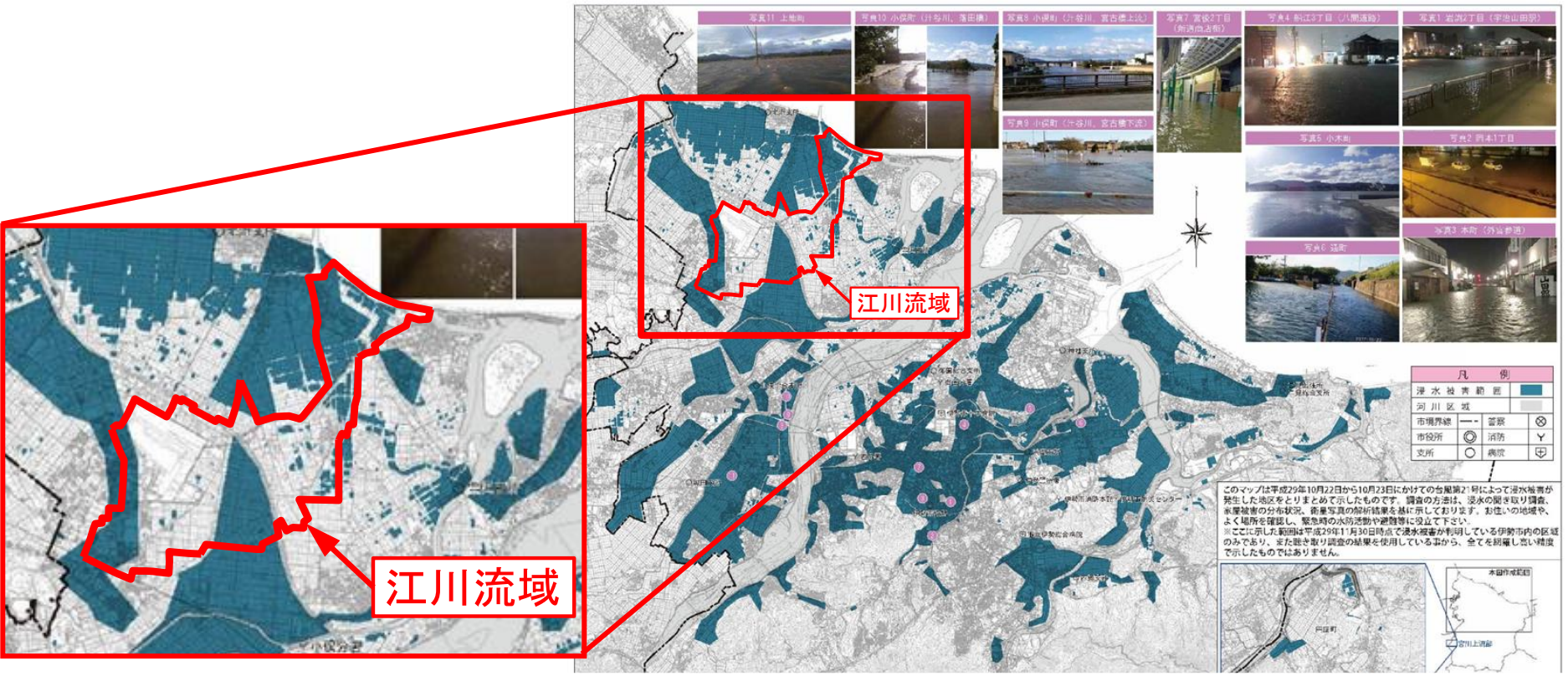
年度	異常気象名	河川・海岸名	水害原因	水害区域面積 (ha)			被災家屋棟数 (棟)					一般資産被害額 (千円)			
				農地	宅地	計	床下浸水	床上浸水	半壊	全壊	計	一般資産	営業停止損失	農作物	計
1974 S49	台風8号及び豪雨 (7.1~7.2)	江川	内水	338.5	203.5	542	33	1	0	0	34	4,306	0	11,907	16,213
1975 S50	豪雨及び暴風雨 (8.5~8.25)	植山地区	内水	70	0	70	0	0	0	0	0	0	0	5,348	5,348
1976 S51	台風第17号と豪雨 (9.7~9.14)	江川	内水	12	0	12	0	0	0	0	0	0	0	1,376	1,376
1976 S51	台風第17号と豪雨 (9.7~9.14)	明野第3地区	内水	4	0.1	4.1	10	0	0	0	10	2,284	0	1,036	3,320
1977 S52	豪雨 (8.4~8.22)	江川	内水	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	86	86
1979 S54	台風第20号 (10.14~10.26)	江川	内水	0	0.1	0.1	2	0	0	0	2	291	0	0	291
1982 S57	豪雨、落雷、風浪と台風第10号 (7.5~8.3)	有滝地区	内水	4	0.1	4.1	2	2	0	0	4	1,923	0	1,200	3,123
1983 S58	台風第5号、6号 (8.12~8.19)	有滝地区	内水	20	0	20	0	0	0	0	0	0	0	500	500
1984 S59	豪雨 (4.17~4.21)	江川	内水	0	0.1	0.1	2	2	0	0	4	83,207	0	0	83,207
1991 H3	台風第17号~19号豪雨風浪 (9.11~9.28)	村松町地区	窪地内水	0	3	3	4	0	0	0	4	1,293	0	0	1,293
1994 H6	台風第26号 (9.27~10.1)	江川	内水	0.05	0	0.05	0	0	0	0	0	0	0	1,000	1,000

水害統計調査

■水害の歴史

■ 近年代表的な出水である平成29年10月(台風第21号)において伊勢市内で多くの浸水被害が発生したが、江川流域では溢水氾濫は無くいずれも農業用水路からの溢水による農地の内水被害である。

年度	異常気象名	市町村	水害原因	水害区域面積(ha)	被災家屋棟数(棟)			
					床下浸水	床上浸水	店舗・倉庫等の浸水	計
2017 H29	台風29号 (10.19~10.24)	伊勢市	有・無提部溢水 内水	約3000	674	408	763	1845

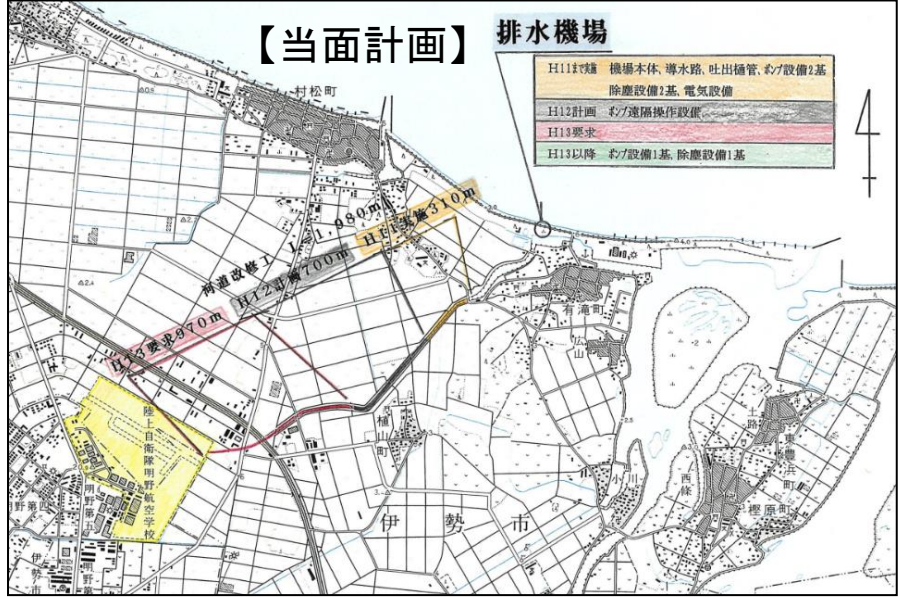


出典:伊勢市資料(平成29年台風第21号の出水概要及び被害の状況)に加筆

■ 既往の治水計画（江川）

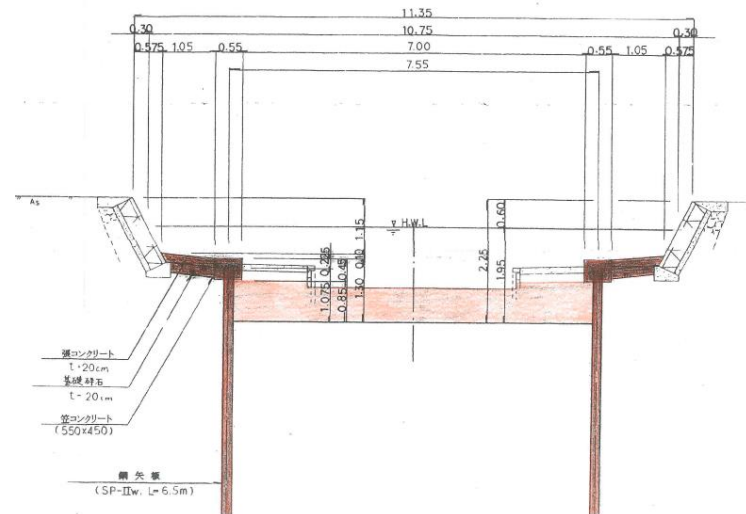
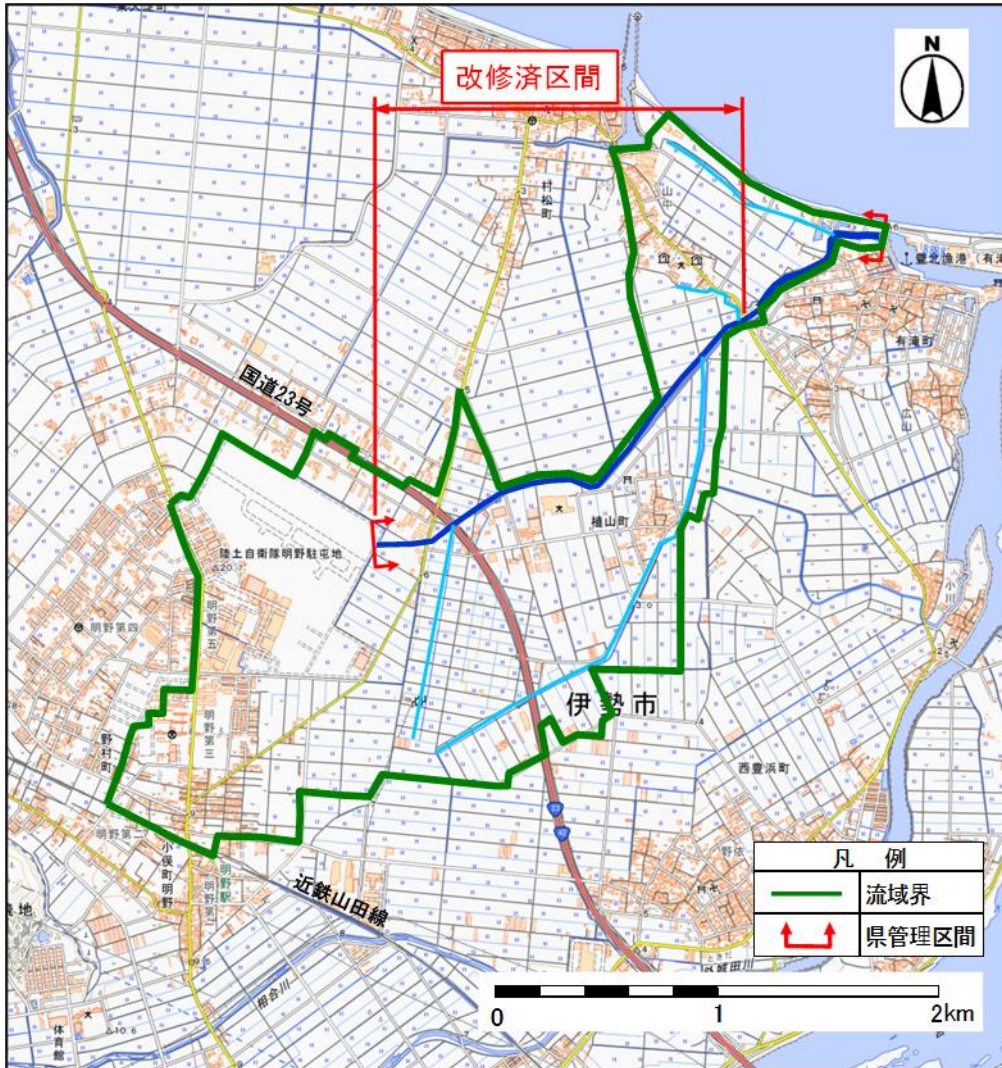
- 江川では、江川上流域における農地の宅地化や、明野駐屯地の拡張等の土地利用の変化に伴う流出量の増加に対し、流域の洪水被害を軽減するため、「江川防衛施設周辺障害防止対策事業」により、平成8年度から河川整備事業に着手した。
- 当事業では、当面計画に基づく江川橋（県道）から県管理区間上流端の河道改修（低水路の河道掘削等）と、高潮対策として江川排水機場（計画排水量 $11.0\text{m}^3/\text{s}$ ）の整備が平成16年に完了している。

	全体計画	当面計画
計画規模	1 / 30	実績降雨 (平成3年9月)
計画流量 (下流端)	$60\text{m}^3/\text{s}$	$17.5\text{m}^3/\text{s}$
整備内容	河道改修 (築堤、河道拡幅等による河積の拡大)	河道改修 (低水路の河道掘削等による河積の拡大)
整備内容 (高潮対策)	江川排水機場 ($11\text{m}^3/\text{s}$)	江川排水機場 ($11\text{m}^3/\text{s}$)



■江川の河川の整備状況

■ 江川の河川整備は、平成8年度から当面計画に基づく河道改修(低水路の河道掘削)が実施済みである。



江川排水機場の整備状況



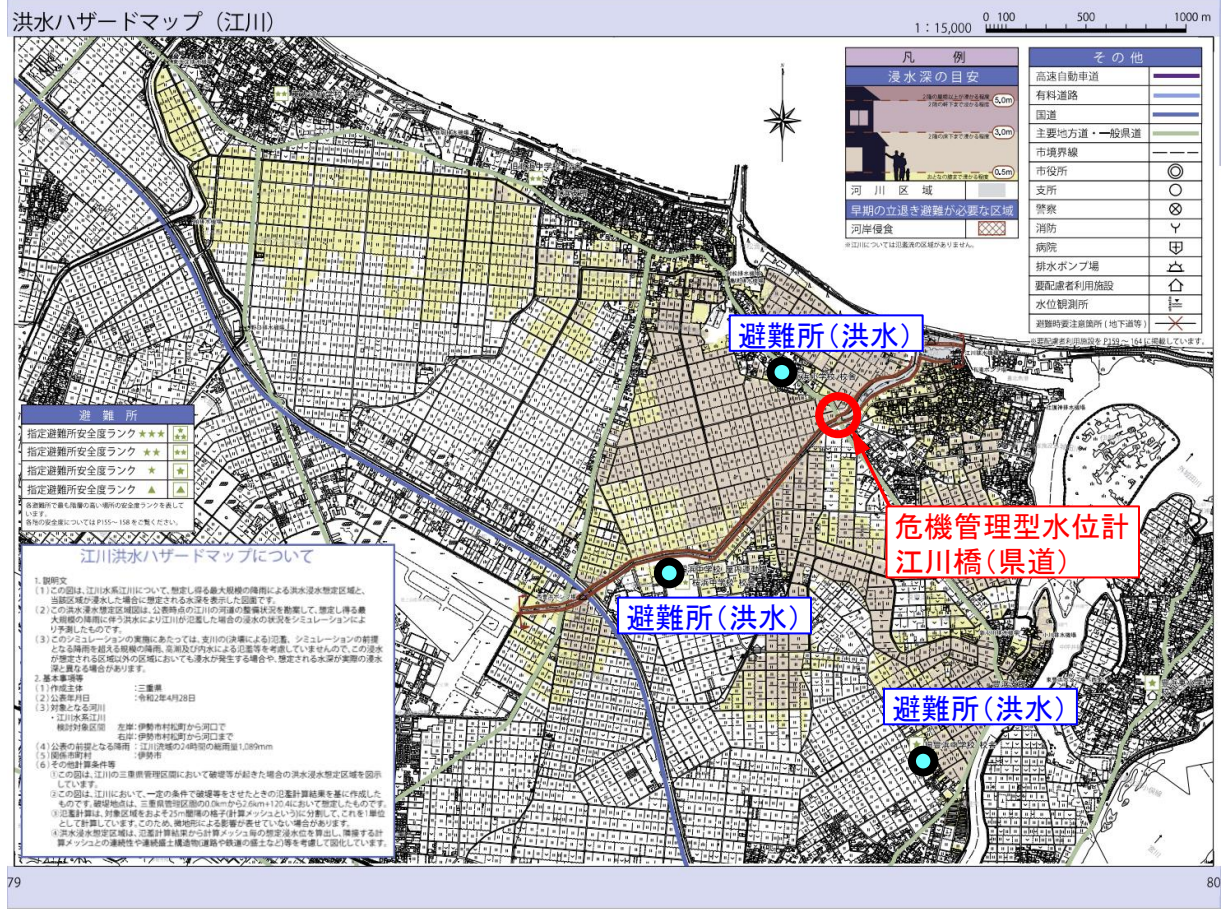
- 江川排水機場は、「江川防衛施設周辺障害防止対策事業」により、平成16年に完成した。（ポンプ排水量 $11.0\text{m}^3/\text{s}$ で整備）
- 排水機場の操作は、高潮時において降雨等が重なり江川の自然排水が阻害された場合に、雨水排水ポンプによる強制排水を行い、流域における内水被害を軽減することを目的としている。
- 建設から20年以上が経過しており、長寿命化修繕計画に基づく延命化対策が必要となっている。また、排水機場は耐震性能が不足するため、耐震対策を検討する必要がある。



ソフト対策の状況



- 伊勢市では、江川の洪水ハザードマップを公表し、浸水が予想される区域や避難場所など住民の避難に資する情報を提供している。
- 三重県では、洪水時の河川状況を把握するため、江川橋(県道)に危機管理型水位計を設置し、専用サイトで配信している。



危機管理型水位計
江川橋(県道)

出典：洪水ハザードマップ(伊勢市)に加筆

流域治水プロジェクト

- 伊勢北部圏域では、県、市町、あらゆる関係者が一体となって流域治水を推進するため、**伊勢北部圏域二級水系流域治水プロジェクト**を策定している。
- 江川水系においては、堆積土砂撤去、江川排水機場の延命化等のハード対策や、ハザードマップ作成、危機管理型水位計の設置等、被害軽減のための取組を進めている。

被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

【伊勢市】

- ・ハザードマップの作成
- ・要配慮者利用施設の避難確保計画作成の促進

【三重県】

- ・危機管理型水位計の設置と情報提供
- ・洪水浸水想定区域図作成と情報提供
- ・高潮浸水想定区域図作成と情報提供
- ・要配慮者利用施設における避難計画策定支援



洪水をできるだけ防ぐ・減らすための対策

【三重県】

- ・江川 河道掘削
(堆積土砂撤去)
施設の延命化
(江川排水機場)

被害対象を減少させるための対策

【伊勢市】

- ・立地適正化計画の策定

【三重県】

- ・立地適正化計画の策定支援

出典：伊勢北部圏域二級水系流域治水プロジェクト 令和6年6月 三重県(抜粋)

■気候変動への対応方針

■ 気候変動を考慮した計画雨量の検討方針

→「気候変動を踏まえた治水計画に係る技術検討会」による提言や、国の見直し事例では、気温2℃上昇時の降雨量変化倍率を1.1倍とし、降雨データは2010年までのデータを使用している

→以上より、三重県においても2010年までの降雨データを使用し、1.1倍した雨量を計画に用いることとする。

気候変動を踏まえた治水計画のあり方 提言

表-2 降雨量変化倍率

		降雨継続時間 12時間以上	降雨継続時間 3時間以上12時間未満	降雨継続時間 3時間未満
4℃上昇		1.3	1.4	—
	北海道、九州北西部	1.4	1.5	—
	その他の地域 (沖縄含む)	1.2	1.3	—
2℃上昇		1.1	1.1	1.1
	北海道	1.15	1.15	1.15
	その他の地域 (沖縄含む)	1.1	1.1	1.1

【適用範囲】

- ・4℃上昇時における降雨継続時間 12 時間未満の値は、3 時間未満では適用できない。
- ・雨域面積 100km² 以上について適用する。ただし、100km² 未満の場合についても降雨量変化倍率が今回設定した値より大きくなる可能性があることに留意しつつ適用可能とする。
- ・年超過確率 1/200 以上の発生頻度の降雨を対象とする計画に適用する。

【留意事項】

- ・降雨量変化倍率は、現在気候に対する将来気候の状態を表す。なお、4℃上昇時の降雨量変化倍率は、21 世紀末時点の将来気候であり、2℃上昇時の降雨量変化倍率については、RCP2.6 では2040 年頃以降の気温上昇が横ばいとなることから、2040 年以降の値として適用可能。

【計算条件】

- ・現在気候の実験期間は、d4PDF(5 km,SI-CAT)が 1980～2011 年（中間年 1995 年）、d4PDF(5 km,yamada)が 1951～2010 年（中間年 1980 年）であり、中間年でみると 15 年の差があるが、現在の治水計画では主に戦後以降のデータを対象としているため、d4PDF(5 km,yamada)の実験期間である 1951～2010 年を基準とする。なお、1951～1980 年を基準とすると、d4PDF(5 km,SI-CAT)の降雨量変化倍率は約 0.02 倍低く評価されているが、それも考慮した上で上表のと

出典:「気候変動を踏まえた治水計画のあり方」提言
(令和3年4月改訂)国土交通省
(https://www.mlit.go.jp/river/shinngikai_blog/chisui_kentoukai/index.html)



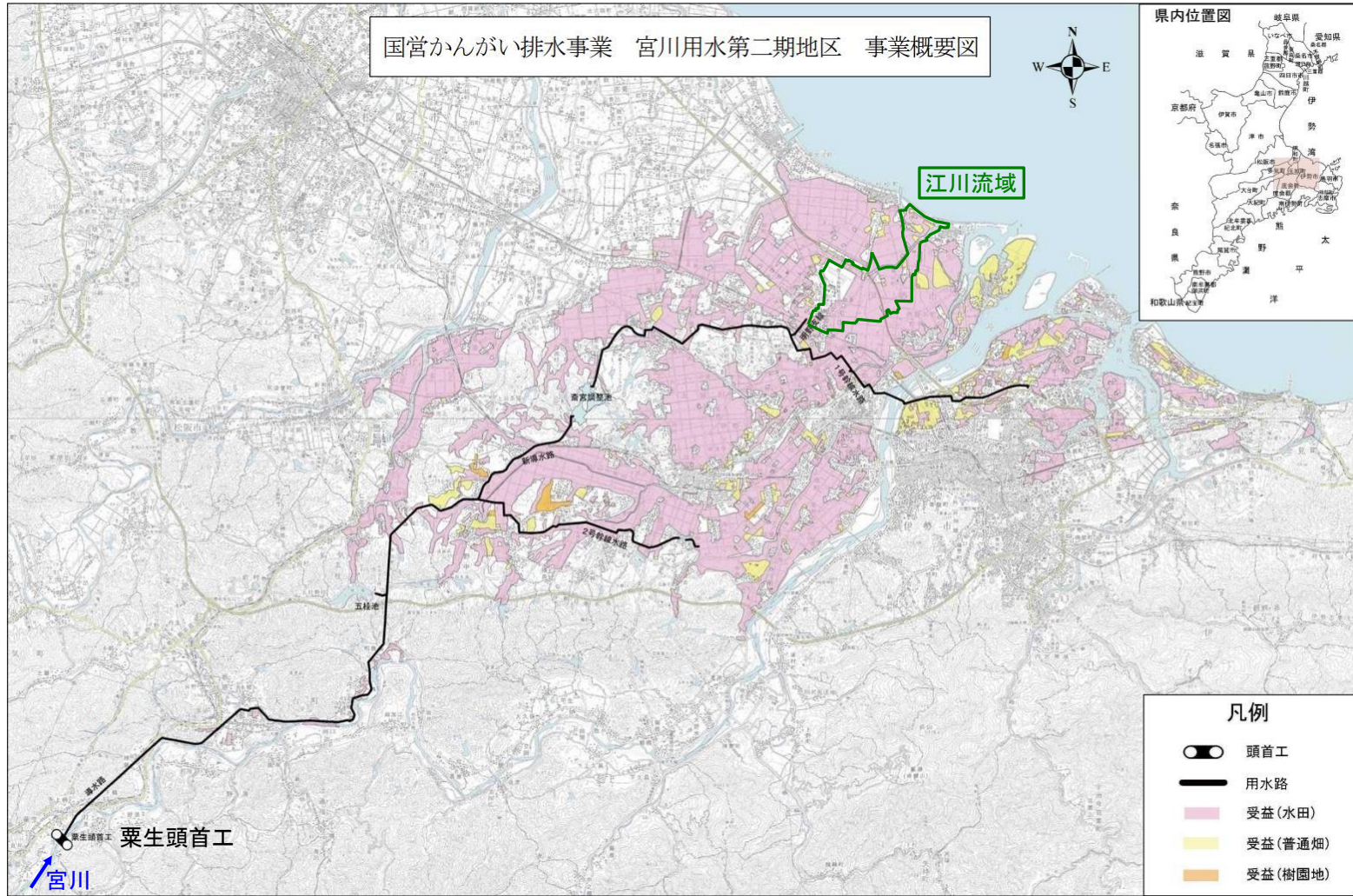
目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 治水の概要
- 4. 利水の概要**
5. 環境の概要
6. 今後の進め方

■ 水利用の現状



- 江川の県管理区間において、水利権は設定されていない。
- 江川沿川の農業用水は、宮川用水により賄われている。



出典：東海農政局資料に加筆



目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 治水の概要
4. 利水の概要
- 5. 環境の概要**
6. 今後の進め方

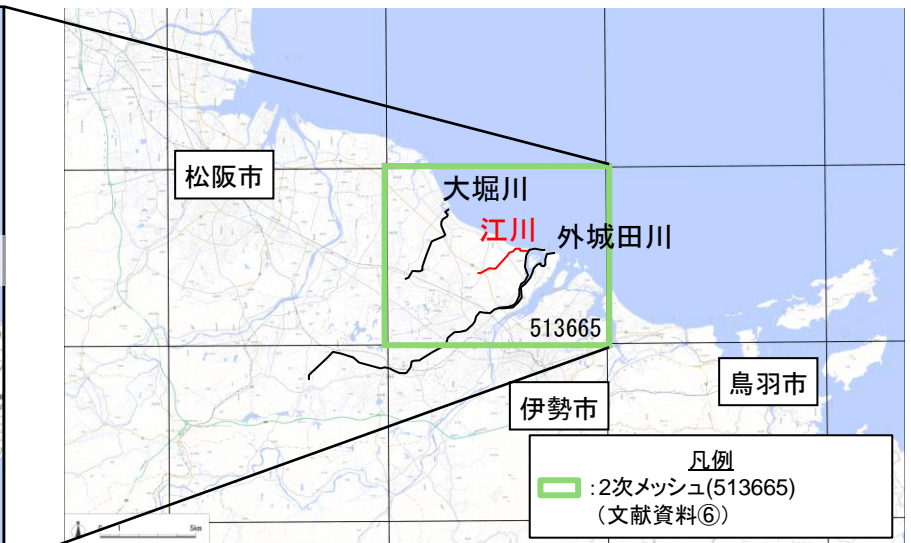
■江川流域の環境（文献調査）

□文献調査：江川流域の環境の概要を把握するため、文献調査を行った。江川流域を含む2次メッシュ及び江川流域の現地調査資料が不足しているため近隣河川（大堀川・外城田川）の現地調査結果も併せて整理した。

番号	資料名	調査対象範囲	項目
①	三重県の河口域魚類、豊橋市自然史博物館研究報告（19）（2009年、荒尾一樹）	江川（河口部） 近隣河川（大堀川・外城田川）	魚類
②	水生生物の分布、生態調査、淡水魚類の分布と希少魚類の繁殖基礎試験 平成12年度 三重県水産技術センター事業報告書（2001年、宮本敦史）	近隣河川（大堀川・外城田川）	
③	三重県におけるオオクチバスとブルーギルの分布 三重県水産技術センター研究報告 書第9号（2001年、水野智巳・宮本敦史）		
④	平成30年度河川調査第33-1 分2001 号 二級河川外城田川水系河川整備基本方針及び河川整備計画策定業務委託 報告書	近隣河川（外城田川）	魚類、鳥類、昆虫類、両生類、爬虫類、哺乳類、底生動物、植物
⑤	三重県河川整備計画流域委員会（令和6年度 第1回）二級河川 大堀川水系（第2回流域委員会）参考資料（令和6年8月、三重県）	近隣河川（大堀川）	
⑥	三重県レッドデータブック2015～三重県の絶滅のおそれのある野生生物～（2015年、三重県）	地域 （江川が含まれる2次メッシュ(513665)）	



調査対象範囲（拡大図）



調査対象範囲（広域図）

注）地理院タイル（淡色地図）を加工して作成



■江川流域の環境（文献調査）

- 文献調査の結果、江川流域を含む2次メッシュ内や、隣接する大堀川、外城田川流域では、魚類は59種、植物は395種、底生動物は152種、鳥類は98種、陸上昆虫類は252種、両生類は6種、爬虫類は10種、哺乳類は7種の確認記録があった。
- 重要種については、魚類は20種、植物は49種、底生動物は45種、鳥類は39種、陸上昆虫類は31種、両生類は2種、爬虫類は3種の確認記録があった。
- 特定外来生物については、魚類は3種、植物は1種、底生動物は1種、両生類は1種、爬虫類は1種、哺乳類は1種の確認記録があった。

文献調査による出現種

分類群	種数
魚類	10目 23科 59種
植物	42目 100科 395種
底生動物	28目 92科 152種
鳥類	15目 39科 98種
陸上昆虫類	13目 90科 252種
両生類	1目 4科 6種
爬虫類	2目 8科 10種
哺乳類	4目 6科 7種

文献調査による重要種

分類群	種名
魚類	20種(ヤリタナゴ、カワヒガイ 他)
植物	49種(スブタ、カワツルモ 他)
底生動物	45種(マルタニシ、カワアイガイ 他)
鳥類	39種(チュウサギ、ケリ 他)
陸上昆虫類	31種(コオイムシ 他)
両生類	2種(トノサマガエル、ナゴヤダルマガエル)
爬虫類	3種(アカウミガメ、ニホンイシガメ、ニホンスッポン)
哺乳類	—

文献調査による特定外来生物

分類群	種名
魚類	3種(カダヤシ、ブルーギル、オオクチバス)
植物	1種(オオキンケイギク)
底生動物	1種(アメリカザリガニ)
鳥類	—
陸上昆虫類	—
両生類	1種(ウシガエル)
爬虫類	1種(ミシシippアカミミガメ)
哺乳類	1種(アライグマ)

〔備考〕

※重要種の選定基準は以下とした。

- ・「文化財保護法」、「三重県文化財保護条例」で指定されている種。
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」において指定されている種及び亜種。
あるいは「三重県自然環境保全条例」（平成15年3月17日三重県条例第2号、最終改定平成25年12月27日三重県条例第89号）に基づく希少野生動植物。
- ・「環境省レッドリスト2020（令和2年2月）」に記載されている以下の種及び亜種。
- ・「三重県レッドデータブック2015」（平成27年、三重県）に記載されている種及び亜種。
- ・「三重県レッドリスト（2024年版）（案）」（令和6年、三重県）に記載されている種及び亜種。

※外来種の選定基準は以下とした。

- ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」（令和16年、法律第78号）に記載されている種及び亜種。
- ・「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」（平成27年、環境省）において指定されている種及び亜種。

□ 文献調査の結果を踏まえ、江川での河川環境を把握するため、現地調査を実施した。

調査項目		調査内容	調査範囲・地点数	調査日
動物	魚介類	魚類	2地点で実施 (中上流部、下流部で各1地点)	令和6年10月25日
		底生動物		
	鳥類・両生類・爬虫類・哺乳類	任意観察 (ラインセンサス調査)	調査対象範囲全域	令和6年10月17日
昆虫	任意採集 ※サンプル分析中 ライトトラップ (ボックス法) ※サンプル分析中	令和6年10月8日		
植物		任意観察		令和6年10月7日
河川環境		現地での確認、記録		令和6年10月7日

注) 魚類の環境DNA分析、底生動物の任意採集、昆虫の任意採集・ライトトラップはサンプル分析中であり、調査結果は次回提示予定



注) 地理院タイル (淡色地図) を加工して作成
調査対象範囲



投網(魚介類調査)



タモ網(魚介類調査)

○重要種の選定基準

- ・「文化財保護法」(昭和25年、法律第214号) あるいは「文化財保護条例」(昭和32年、三重県)
- ・「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年、法律第75号) あるいは「三重県自然環境保全条例」(平成15年3月17日三重県条例第2号、最終改定平成25年12月27日三重県条例第89号) に基づく希少野生動植物。
- ・「レッドリスト2020」(令和2年、環境省)
- ・「三重県レッドデータブック2015」(平成27年、三重県)
- ・「三重県レッドリスト(2024年版)(案)」(令和6年、三重県)

○外来種の選定基準

- ・「特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律」(平成16年、法律第78号)
- ・「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト」(平成27年、環境省)

河川環境の概況（河川環境）

□ 河川環境：上流から河口にかけて、流速は緩やか。
 中上流部は河川が整備されており、低水路内の大部分が植生に覆われ、下流部は、比較的川幅が広く、低水路内にヨシ原、水草が群落を形成していた。
 河床材料は、中上流部では砂質の土壌であり、下流部では泥質の土壌であった。



■河川環境の概況（現地調査：魚類）

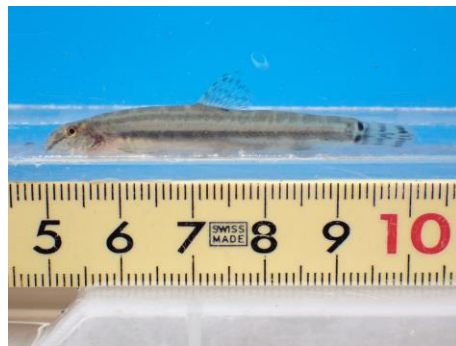
□魚類：8科13種を確認。重要種として、流れが緩やかなヨシ原等の陰に生息するニホンウナギ、ミナミメダカ、流れが緩やかで砂泥質の環境を好むトウカイコガタスジシマドジョウの3種を確認。外来種として、特定外来生物であるカダヤシ、オオクチバスの2種を確認。

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	ウナギ科	ニホンウナギ	1	1
2	コイ科	コイ（型不明）		12
3		フナ属	4	3
4		ウグイ	3	
5		タモロコ	1	
6		ドジョウ科	トウカイコガタスジシマドジョウ	6
7	ナマズ科	ナマズ		1
8	カダヤシ科	カダヤシ *	10	29
9	メダカ科	ミナミメダカ	2	1
10	サンフィッシュ科	オオクチバス *	2	
11	ハゼ科	ヌマチチブ	1	11
12		ウキゴリ	1	1
13		ビリンゴ		8
	8科	13種	10種 31個体	9種 67個体

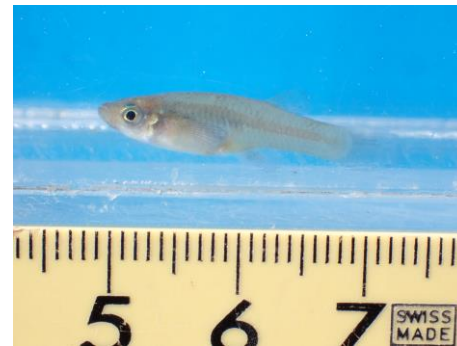
注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。
(特定外来生物には「*」を付した)



ニホンウナギ



トウカイコガタスジシマドジョウ



カダヤシ *



オオクチバス *

河川環境の概況（現地調査：植物）



□植物：39科94種を確認。重要種としては、溜池、水路、水田等に生育する**ミズオオバコ**、小河川や水路等の浅い水中に生育する**ナガエミクリ**の**2種**を確認。外来種は確認されたが、特定外来生物は確認されなかった。

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	トクサ科	スギナ	●	●
2	トチカガミ科	オオカナダモ	●	●
3		ミズオオバコ	●	●
4	ヒルムシロ科	ヒルムシロ属	●	●
5	ヤマノイモ科	ヤマノイモ		●
6	ユリ科	シソテッポウユリ		●
7	ヒガンバナ科	ノビル	●	
8		ヒガンバナ		●
9	ツユクサ科	ツユクサ	●	
10		ノハカタカラクサ	●	
11	ガマ科	ナガエミクリ	●	
12		ヒメガマ	●	●
13	イグサ科	コゴメイ		●
14	カヤツリグサ科	シオクグ		●
15		アゼスゲ		●
16		カヤツリグサ		●
17		ハマスゲ	●	
18		テンツキ	●	
19		カンガレイ	●	
20		アブラガヤ	●	
21	イネ科	メリケンカルカヤ		●
22		ヤマアワ		●
23		ギョウギシバ	●	●
24		メヒシバ	●	●
25		オヒシバ	●	●
26		シナダレスズメガヤ	●	●
27		コスズメガヤ		●
28		チガヤ	●	●
29		ススキ	●	●
30		ヌカキビ	●	
31		キシウスズメノヒエ	●	
32		タチスズメノヒエ		●

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
33	イネ科	チカラシバ	●	●
34		ヨシ		●
35		アキノエノコログサ	●	●
36		キンエノコロ	●	●
37		セイバンモロコシ	●	●
38		ネズミノオ		●
39		マコモ	●	
40	アケビ科	アケビ		●
41	ツヅラフジ科	アオツヅラフジ	●	●
42	ベンケイソウ科	ツルマンネングサ	●	●
43	ブドウ科	ヤブカラシ	●	●
44	マメ科	クサネム		●
45		アレチヌスビトハギ	●	●
46		メドハギ	●	●
47		シロツメクサ	●	●
48	ニレ科	アキノレ		●
49	アサ科	ムクノキ	●	●
50		ユノキ	●	●
51		カナムグラ	●	●
52	クワ科	ヤマグワ	●	●
53	バラ科	ビワ		●
54		ノイバラ	●	●
55		ナワシロイチゴ	●	●
56	ウリ科	カラスウリ		●
57	ニシキギ科	ツルウメモドキ		●
58		マサキ		●
59	トウダイグサ科	コニシキソウ	●	●
60		オオニシキソウ	●	●
61		アカメガシワ	●	●
62	コミカンソウ科	コミカンソウ		●
63	ヤナギ科	ジャヤナギ		●
64	ミソハギ科	ホソバヒメミソハギ	●	●

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
65	アカバナ科	ヒレタゴボウ		●
66		コマツヨイグサ	●	●
67	タデ科	イタドリ	●	●
68		ヒメツルソバ	●	●
69		ヤナギタデ	●	●
70		シロバナサクラタデ	●	●
71		オオイヌタデ	●	●
72		ミゾソバ	●	●
73	ヒユ科	イノコヅチ	●	●
74		ツルノゲイトウ		●
75	ザクロソウ科	クルマバザクロソウ		●
76	スベリヒユ科	ヒメマツバボタン	●	●
77	アカネ科	ヘクソカズラ	●	●
78	キョウチクトウ科	ガガイモ	●	●
79	ヒルガオ科	ヒルガオ	●	●
80		ハマヒルガオ		●
81		マメアサガオ		●
82		アメリカソライロアサガオ		●
83		ホシアサガオ		●
84	ナス科	ヒロハフウリンホオズキ	●	
85		ワルナスビ	●	
86	オオバコ科	キクモ	●	●
87	シソ科	ハマゴウ		●
88	キク科	ヨモギ	●	●
89		ノコンギク	●	●
90		コシロノセンダングサ	●	●
91		コセンダングサ	●	●
92		ヒメムカシヨモギ	●	●
93		セイタカアワダチソウ	●	●
94	スイカズラ科	スイカズラ	●	●
	39科	94種	64種	78種



ミズオオバコ



ナガエミクリ

注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。
(特定外来生物には「*」を付した)

河川環境の概況 (現地調査：鳥類、両生類、爬虫類、哺乳類)



- **鳥類**：18科27種を確認。重要種は**バン1種**を確認。外来種は確認されなかった。
- **両生類**：1科1種を確認。重要種、外来種は確認されなかった。
- **爬虫類**：2科2種を確認。重要種は確認されなかった。外来種として特定外来生物である**ミシシippアカミミガメ**を確認。
- **哺乳類**：3科3種を確認。重要種、外来種は確認されなかった。

鳥類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	カモ科	ヒドリガモ		●
2		マガモ		●
3		カルガモ		●
4		ハシビロガモ		●
5		コガモ		●
6	カイツブリ科	カイツブリ	●	●
7	ハト科	カワラバト(ドバト)	●	●
8		キジバト	●	●
9	ウ科	カワウ	●	●
10	サギ科	アオサギ	●	●
11		ダイサギ	●	●
12		コサギ	●	●
13	クイナ科	バン	●	●
14		オオバン	●	●
15	シギ科	イソシギ	●	●
16	タカ科	トビ	●	●
17	カワセミ科	カワセミ	●	●
18	モズ科	モズ	●	●
19	カラス科	ハシボソガラス	●	●
20	ヒバリ科	ヒバリ	●	●
21	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	●	●
22	メジロ科	メジロ	●	●
23	ムクドリ科	ムクドリ	●	●
24	スズメ科	スズメ	●	●
25	セキレイ科	キセキレイ	●	●
26		ハクセキレイ	●	●
27	ホオジロ科	ホオジロ	●	●
	18科	27種	16種	22種

注) オレンジセルは重要種、青色セルは外来種を示す。
(特定外来生物には「*」を付した)

両生類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	アマガエル科	ニホンアマガエル	●	●
	1科	1種	1種	1種

爬虫類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	ヌマガメ科	ミシシippアカミミガメ*	●	●
2	カナヘビ科	ニホンカナヘビ	●	●
	2科	2種	2種	1種

哺乳類調査結果

No	科	種名	江川	
			中上流部	下流部
1	モグラ科	モグラ属の一種	●	●
2	イヌ科	タヌキ	●	●
3	イタチ科	Mustela属の一種	●	●
	3科	3種	3種	2種

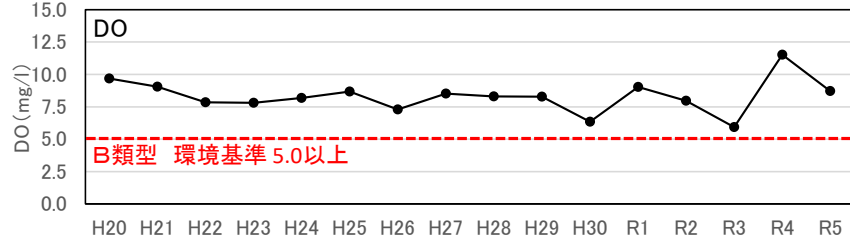
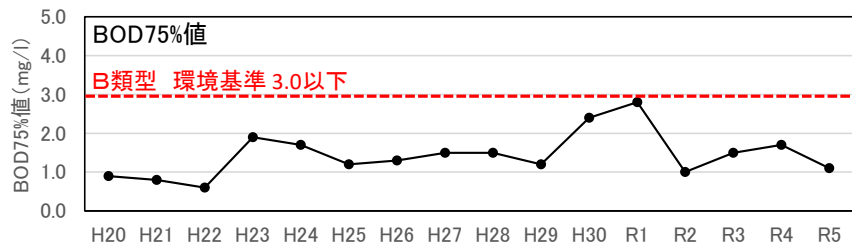
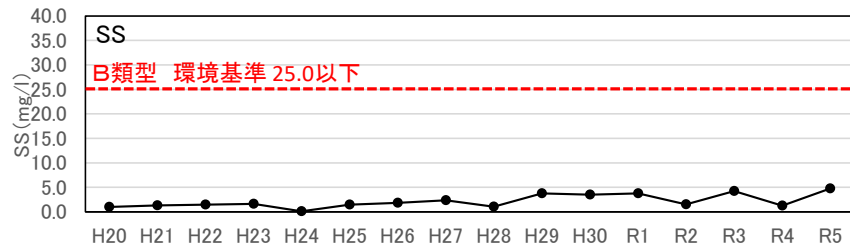
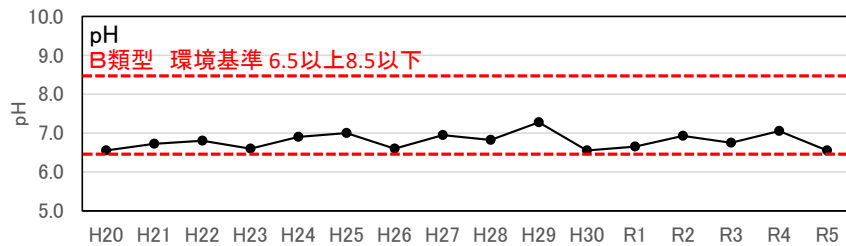


ミシシippアカミミガメ*

河川水質の推移



- 江川では、江川橋(県道)において、伊勢市により定期的な水質調査が行われている。
- 江川には生活環境の保全に関する環境基準による類型指定はないが、江川の環境はB類型の環境基準を満たしている。
- なお、近隣河川の笹笛川、外城田川の上流はB類型に指定されている。
- また、近隣河川の大堀川においても類型指定はないが、概ねB類型の環境基準を満たしている。





目次

1. 流域の概要
2. 河道の変遷
3. 治水の概要
4. 利水の概要
5. 環境の概要
- 6. 今後の進め方**

■今後の進め方

